

げ回ったとか、食料がなくて、雑草も食べたとか、衣服やくつも配給制で自由には手に入らなかったとか。そのような時代に比べて今の日本は、何とせいたくなくらしをしていることでしょうか。給食のパンがまずいからと言って残し、野菜はきらいだからといってへらし、えんぴつも、けしゴムも大切にせず、床に落ちてもそのままひろわずしてしまいう人もいます。同じ地球上に住みながら、天国と地獄のようなちがいだと思います。

ぼくたちの学校では、このような気の毒な人のために、少しでも役に立つように、児童会を中心に二つのことを実行しています。

一つは、古切手集めです。これは家庭にある郵便物についてきた切手を切りとって集めます。それを赤十字に送ると、BCGの薬がたくさんかえます。貧しい国の子はBCGがないために、けっかくという病気にかかり、バタバタと死んでいたり、失明したりすることが多いそうです。ぼくたちが送ってあげたBCGが、そのような気の毒な子の役に立てば、ぼくたちの苦勞がむくわれると一生けん命やっています。最近では、会社や工場でも古切手を集めてとどけてくれるようになりました。ぼくたちの運動が理解されて、とてもうれしいです。

もう一つは一円募金です。自分たちの小づかいや、家の戸棚の中にねむっている小銭を集めて、気の毒な人に送っています。年末の歳末助け合いに合わせて実施しています。昨年は四万円ぐらい集まりました。古切手集めと一円募金はこれからも続くようにがんばり

たいと思います。

今、ぼくたちは平和な国に生活し、安心して学校生活を送っています。この幸せがいつまでも続くように努力することが、二十一世紀に生きるぼくたちの役目だと思います。

戦争のない 平和な未来に

中宮祠小六年

飯見 怜子



今の日本は戦争もなく平和な日々を送っています。しかし、その平和な日本にも過去に数多くのぎせい者を出したひさんな戦争があったのです。そしてあのおそろしい原子爆弾が使われたのです。

私はこの前の授業で広島や長崎に落とされた原爆のひさのの様子をスライドや写真で見ました。十四万人もの人々がたった一発のばくだんで死んでしまったことを考えるとかわいそうでした。何とせんでもありませんでした。何も知らないたくさんの幼い子どもたちの命がうばわれていったのです。

まつ黒にこげてしまい人間の姿とは思われ

なくなってしまう人。大やけどに苦しむ人やかみの毛がぬけてしまった人。道ばたに虫けらのように横まれた人の山。あまりのすごさに目をおおいたくなりしました。焼け落ちた柱のしたじきになる子どもを助けることができず、目の前で自分の子どもが焼け死んでいくのを泣きさげびながら、ただ見ているしかなかった母親の姿と子どものさげび声。死んだ母親のおっぱいをしきりにしゃぶる赤んぼの姿。そして放射能をふくんだ黒い雨にうたれ、苦しみながらやはり死んでいく人々。

罪もない人たちがしゅんぬの間に死んでいった地獄のような光景が、頭からはなれませんでした。戦争とはいったい何なのでしよう。昭和二十年には、世界に三発しかなかった原爆が、今では約五万発。広島型原爆の百三十万発分もあると聞いておどろくばかりでした。核兵器に戦争、なんて残こくなことでしょうか。こんな残こくなことを早くなくして、世界の平和を築いていくには、やはり原爆を落とされた世界でただ一つの国である私たち日本人が、先頭に立って進めていかなければならないと思います。

私たちの住む日光市は核兵器を許さない非核都市宣言をしている市です。このことは大変すばらしいことだと思います。日光市のような市町村が少しでもできることを、広島や長崎で亡くなっていた人が、遠い遠いところで願っているような気がします。戦争で亡くなった人たちが今でも原爆のきずあとに苦しむ人たちのために、二度と戦争を起こしてはいけないと思います。戦争のない核兵器